

論文審査の結果の要旨

報告番号	乙 第 1195 号	氏 名	海 老 澤 聡 一 朗
論文審査担当者	主 査 今村 浩 副 査 駒津 光久 ・ 岡田 健次		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>酸化ストレスの関与が心や脳血管の動脈硬化進展へ大きな影響をおよぼすことは徐々に明らかになっているが、閉塞性動脈硬化症への関与については不明な点が多い。d-ROMs テストは全身の酸化ストレスを測る一つの手段である。今回、我々は d-ROMs テストを用いて PAD 患者の酸化ストレスを測定し、それが血行再建によってどのような影響を受けるか検証した。</p> <p>その結果以下の成績を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">25 例が登録され、そのうち 23 名(92%)が男性で平均年齢は 73.6±7.14 歳であった。手技は全例成功し歩行距離は術前、術後で改善を認め、ABI も改善した。d-ROMs テストは術前術後で明らかな改善を認めた。ABI の改善が大きいほど d-ROMs テストの改善値は著明でありこれらは互いに相関した。最大歩行距離が伸び幅が大きいほど d-ROMs テストの改善値は著明でありこれらは互いに相関した。d-ROMs テストは術前値が高いほど低下する傾向にあった。 <p>本研究で閉塞性動脈硬化症患者に対する血管内治療は ABI、歩行距離の改善をもたらすと同時に酸化ストレスの改善をもたらすことが示された。血管内治療は局所治療のみならず全身へ影響がある治療であることが示され、結果的に動脈硬化疾患の二次予防に関与することができる可能性が示唆された臨床研究であり、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			